

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2375601594
法人名	有限会社 ライフエール
事業所名	グループホーム 悠縁
訪問調査日	平成 20年 2月 27日
評価確定日	平成 20年 3月 25日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2375601594
法人名	有限会社 ライフェール
事業所名	グループホーム悠縁
所在地	愛知県愛西市甘村井町勤十田割21番地2 (電話)0567-24-7377

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地 COMBi本陣N203		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年3月25日

## 【情報提供票より】(平成20年1月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 8人, 非常勤 11人, 常勤換算 15 人	

### (2) 建物概要

建物構造	準耐火構造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	共益費21,000円、管理費11,500円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(退去時に修繕費と精算)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,200 円				

### (4) 利用者の概要(3月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	津島市民病院 加賀医院 佐藤歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東方はるか名古屋の高層ビルの谷間から昇る日の出、多度の山並みに沈む夕日を眺めながら、田園風景豊かな環境の中で自分なりの暮らしを営む。ホームは、開設3年目を迎え“大家族のように”“ご縁を大切に”を「合い言葉」にして、より良いケアの実現に取り組んでいる。また、経営母体が推進する「複合介護」サービスの一翼を担い、地域貢献の役割を果たしている。管理者は、職員のレベルアップが利用者へのサービスの向上に繋がるとして、職員意識の改革や研修に努め、ゆとりのある職員配置をとっている。居間や廊下の装飾や作品展示には、工夫と気配りがあって、壁一枚が折り紙文字の大きなカレンダーとなっている。食事は糖尿病を配慮して、低カロリーで薄味の献立である。みんなが家族という理念の下に、家庭的で温かみのある暮らし、生きる喜びや生きがいを感じられる暮らしをしっかりと支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では、介護計画の見直し、地域交流などについての検討や対応が期待された。介護計画の見直しは業務支援ソフトの導入と職員等の連携により、速やかな対応が可能になった。地域との交流も積極的に取り組み、花火大会(3000発の打ち上げ花火)、夏祭り(盆踊り、屋台出し)では、町内会への招待により、200人余りもの賑わいとなった。運営推進会議にも町内会の代表がメンバーとして参加している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>① 先の外部評価の結果は、職員会議やミーティング等で全職員に周知され、話し合い、サービスの改善に結びつけてきた。今回の自己評価もリーダーが中心となり、評価表をまとめた。管理者は職員の取り組みを見守ってきた。どんな小さなことでも皆で話し合うという“ホームの社風”ができたようだ。今回の外部評価もホーム全体で確認と検証をしていただきたい。</p>
重点項目	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、1月に開催された。地域からは町内会長、民生委員、行政側からは市職員、地域包括支援センターの担当、家族の代表が、ホームからは管理者、リーダー、看護師、ケアマネージャーが参加している。会議では、運営推進会議の趣旨、ホームの理念と概況、年間行事などが報告され、市の職員からは、「介護サービスが量より質の時代が変わっている。」と説明された。これからも会議を継続して、地域や行政との連携、家族との信頼、サービスの質の向上に努めていくことを期待したい。</p>
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>今回の「家族アンケート」では、多くの家族から、高い満足度が示されている。(たとえば、多くの話し相手が得られて大変良い。本人に合わせた細かな対応をしてもらっている、など) アンケートからは、ホームが家族の要望や意向をよく聞いている状況が伝わってくる。医療の必要性や重症化した場合の対応についても、よく家族と話し合い、安心と納得の支援が提供できるよう、取り組まれることを期待する。</p>
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者や職員は、散歩や買い物時に、近隣の人たちに挨拶や話かけをしている。ホームは、駐車場を会場にした「夏祭り」に地元の人たちを招待している。また、町内会行事には可能な限り参加し、ボランティアに来てもらうなど、地域交流に努めている。定期的に発行されているホーム誌「縁だより」は、地域の人たちに配布して、地域とのつながりを強化していくよう期待する。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“悠縁”で出会い関わったすべての人が「縁」を結び、利用者本人も家族等も、ホームの管理者も職員も、みんなが、“悠縁”という「大きな1つの家族の一員として暮らす」という考え方をあたため、これをホームの「理念」としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎日、朝礼の中で「理念」を繰り返し職員に話している。職員も「理念」をよく理解し、共有している。「理念」を文字にして、貼り出したものはないが、その「理念」は日々の実践に取り込まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、町内会、老人会に入会している。地域の草取り、ゴミ拾い、神社の掃除などに積極的に参加している。また、ホームの夏祭り、盆踊り会、花火会などには、多くの地域の人たちに参加してもらい、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は共に、「評価」の意義をよく理解している。自己評価票の作成にあたっては、全員で考え、意見をまとめて、サービスの向上に反映させようとしている。先回の外部評価の改善課題についても全員で取り組んできた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1月の初旬、関連の介護施設と合同で運営推進会議が開催された。会議では、会議の趣旨、ホームの概要(理念、現況、行事等)や今後の取り組み予定について説明された。慰問ボランティア、ヘルパー養成研修の実習生受け入れや地域への要望なども議題にしている。家族代表、民生委員、行政担当者からのアドバイスや意見も聞いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町村合併したばかりで、市の窓口体制が整っていなかった時期もあったが、行政との連携は何回も介護予防や地域密着サービスのことで、度々足を運ぶことで関係も良くなってきた。市の職員が運営推進会議に出席して、サービスの質についてコメントもしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームは、様々な手段で、利用者の日頃の様子、健康状態、暮らしぶりを家族等に伝えている。ホーム誌「悠縁便り」で、近況を伝え、容態変化が生じた時は個別に連絡をしている。また、金銭管理は、個別の買い物は事前に家族と連絡を取ってから購入し、預かり金の出納報告は、毎月「サービス利用請求書」に同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の要望、意見、不満、苦情には、日頃から、管理者や職員に話しやすい雰囲気づくりに努めている。玄関には、「意見箱」が設けてあるが、今までに使用されたことはない。家族からの要望や意見、解決すべき課題は、管理者、職員は真摯に受け止め、素早く対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職があった場合は、状況理解ができる利用者には職員の交替を説明している。新任職員が配属された時には、利用者が慣れるまで、馴染みの職員がフォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、スキルアップ研修の機会が与えられている。たとえば、介護福祉士の資格取得への支援や便宜、ホーム外研修への参加など。また、多くの職員は自己研鑽に努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームそのものは、特定の福祉ネットワークは持っていないが、管理者が懇意にしている他のグループホームとは定期的に訪問や情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新たな利用者の入居の際には、度々出向き、本人、家族等の状況や要望を聞き、本人や家族等が納得するまで話し合っている。また、事前にホームを見学をしてもらい、入居後は早くホームの生活に馴染めるようにしている。世話好きの利用者に「親しくお話ができる人」の役割を頼んで、心配や不安の解消、自然に馴染んでもらえる雰囲気作りに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の特技や趣味を活かして、得意分野での作品や成果の発表をしてもらったり、講師になってもらったり、何かのために話をしてもらうようにしている。このような取り組みを通じて、利用者と職員が楽しみごとを分かち合えるようにしている。また、利用者の生き方、考え方を尊重して、一方的な支援とならないよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い、暮らし方を尊重している。また、家族からの思い、意向、情報を大切にして、日常ケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、介護業務支援ソフトを利用して迅速な計画を作成している。利用者が「自分らしく暮らせる」ように、家族や本人、ケアマネージャー、職員が話し合い、介護計画に反映させている。全て職員が利用者の状況を共有し、同じ考えに立って支援することが最も大切であるとしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日、日勤、夜勤の職員が気づいたことを「日誌メモ」に記入し、職員全員が朝礼や申し送りミーティングで確認している。普段から情報を共有して、直近のニーズに合うよう、介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地内に、通所介護、小規模多機能型居宅介護事業所を併設し、様々なニーズに対応できるように取り組んでいる。豆まきなどの行事では、併設のデイサービスとの交流も行われている。利用者同士の馴染みの関係もでき、日常生活の拡大へとつながっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは、提携の医療機関があるが、利用者が従来からのかかりつけ医、特別に希望する医療機関などの受診を希望する場合は、その意向を尊重している。これらの受診は、家族等が行うことを基本としているが、やむを得ない場合は職員が通院介助を行っている。協力医のホーム往診もあり、医療面は柔軟に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームには「看取りに関する指針」があり、本人や家族等の要望や意向に沿うように努めている。看取りチームは、本人の症状や留意点など情報を共有し、また、医療機関と連携して、「看取りサービス」が提供できるようにしている。今までに経験した看取りの事例を生かして、これからの「看取りサービス」に向け更なる努力をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳を損ねないように、日常的な声かけや関わりが、さりげなく支援されている。介護記録も「個人情報取り扱い」の定めに従い、記入や閲覧等は必ず事務所内で行うよう周知徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を考慮しながら、利用者の希望に沿った支援が日々行われている。レクリエーションをはじめ、楽しみごとやおしゃべりも無理強いせず、自然な「お誘い」の中で進められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材には、ホームの畑で採れた新鮮な野菜や、旬ものなどを使い、低カロリーで、薄い味付けの献立となっている。便秘予防のために繊維の多い食事や糖尿病を配慮した食事に調理されている。手伝いのできる人は、職員と一緒に調理、配下膳を行っている。会話を楽しみながら、見守りや介助の食事がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏場は毎日、冬場は一日おきに、利用者の状況に合わせて入浴が行われている。できる限り利用者が希望する時間帯で入浴を楽しんでもらうようにしている。一人ひとりがくつろげるように、個別浴の支援がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一部の利用者は、職員と共に来客接待のお茶出しをしている。「一つの家族」としての役割や楽しみを見出し、他の人への感謝の言葉も忘れない取り組みを実践している。ぬり絵、ちぎり絵の作品づくり、行事参加やレクリエーションも自然な「お誘い」の中で行われている。家族からの希望により「脳トレ」と称される「学習療法(公文式高齢者用のドリル教材)」の取り組みも計画されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2か月に1回、外食や近隣の喫茶店でのモーニングサービスに出かけている。“季節の楽しみごと”として、大相撲夏場所見物、お花見、銀杏拾い等の「遠足」も実施されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の扉は施錠されていない。居室は他の利用者の入るような場合以外は扉に施錠しない。心理的な虐待が生じないように、拘束についての「委員会」も設けられ、尊厳を配慮した支援ができるよう努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の防災・避難訓練が行われている。119番通報のできる直通電話も設置され、緊急連絡網も整備されている。緊急時に備え、水ペットボトル、乾パン、携帯用トイレなどが備蓄されている。地域の人たちにも、夏祭りなどの行事の折に、災害時の支援協力と呼びかけている。	○	利用者への安心・安全を高めるため、夜勤の時間帯での「まさかの災害」に備え、夜間での避難訓練等を実施されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分摂取は「チェック表」に記入され、職員間で情報共有をしている。食事の栄養バランスは献立の作成時に確認されている。食事は糖尿病を考慮し、食材や調味料を厳選し、低カロリー、薄味の献立になっている。地域的な特長として、日常적으로お茶会を開き「抹茶を楽しむ」風習があり、ホームでも頻繁に「お茶会」が開催されている。</p>	○	<p>薄味の糖尿病食を全ての利用者に一律に調理するのではなく、糖尿病発症の心配のない利用者には代替の献立食を用意するなどの工夫を期待する。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>明るい採光の居室、広いウッドデッキを備え、開放感ある居間兼食堂、床材は滑りにくいものを使用、2階への幅広い階段など、よくデザインされ、細やかな配慮も取り入れた居住空間となっている。また、玄関先には季節の花々、ホールには、「手づくり作品」が飾られ、ホーム全体が清潔で、居心地の良い家庭的な生活の場となっている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室への持ち込み品は、できるだけ使い慣れた馴染みの物を持ってくるように、ホームは推奨している。家族の写真、飼っていたペットの写真などが飾られている居室もあれば、清楚な感じの居室もある。ベッドの場所も通風や日当たりの状況に合わせて工夫している。利用者は自分なりの居心地よい居室づくりをしている。</p>		